



本村幼稚園 3月の園だより

令和5年2月28日 港区立本村幼稚園長 山村 登洋

異年齢保育がもたらしたものは

園長 山村 登洋



2月はことのほか寒い日が続きましたが、園庭で元気に遊ぶ子ども達の成長が春の訪れを感じさせてくれています。早いもので、修了式を迎える月になりました。

今年度はコロナ禍ではありましたが、制限等が緩やかになったこともあり、また、保護者、地域の皆様のおかげで多くの行事や園外保育を実施することができました。

2月に行った「生活発表会」もその一つです。3年ぶりに保護者の入場制限なしで行うことができました。当日は多くの保護者の皆様に鑑賞していただき誠にありがとうございました。けなげに、一生懸命に演技する子ども達を見て、私も含めて思わず目頭が熱くなった方々もおられるでしょう。子ども達の大きな成長が垣間見られた時間でもありました。

今年度最大の取組である、はと組、りす組と一緒に保育する異年齢保育も無事に1年を終えようとしています。園生活を振り返ると、異年齢保育での様々な経験は、子ども達にとって必ずしも楽しいことばかりではなかったでしょう。仲間のためにと考えて取り組んだことであっても、周りから理解されず辛く感じたこともあったことと思います。生きている誰もが楽しく、涙することなく生活できることを望み、またその実現を喜ばしいと感じることは、大人も子ども達も当然のことです。

その一方で自分の思いが通らない、理解してもらえない場面は、できれば避けて通りたいと思うものです。しかし、人間は順風満帆の中では成長できないと考えます。自分の思い通りにならない、予定と異なった結果でも、次へのステップのために知恵を絞り、努力する経験があるからこそ成長できると考えます。その意味では、異年齢保育は成長を支える貴重な体験として、自分にとって負の環境を受け止めることにより、その課題解決に向けた様々な力を身に付けていくことに繋がったと感じています。本当に子ども達は頑張りました。大きな成長も見せてくれました。まるで家族のような素晴らしい子ども達です。



本年度も残すところ1ヶ月となりました。園では子ども一人ひとりの成長を認め、さらにもっともっと大きくなって、はと組は修

了式、りす組は終業式を迎えられるように保育してまいります。特にはと組の子ども達は、園で過ごした貴重な体験を、卒園後に進学する小学校の多くの場面で活かしていけることを心から願っております。ご活躍を期待しています。

「星とたんぽぽ」

金子みすゞ

青いお空の底ふかく、
海の小石のそのように、
夜がくるまで沈んでる、
昼のお星は眼（め）にみえぬ。

見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬものでもあるんだよ。
散ってすがれたたんぽぽの、
瓦のすきに、だアまって、
春のくるまでかくれてる、
つよいその根は眼（め）にみえぬ。
見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬけれどもあるんだよ。